



# 鎖につながれた象

ある子から「先生の宝物ってなに？」と尋ねられました。

「タカラモノ」の言葉が指す内容の範囲は、結構広いです。

メダルやトロフィーなどの、「物」である場合。

家族や友人などの、「人」である場合。

家や風景など、「空間」や「場所」をさす場合。

友情や愛など、そもそも実体がない場合。

誰かと過ごす時間など、現在進行形で動いているものをさす場合。

思い出や記憶など、過去にまつわるものを指す場合。

他にも、様々な選択肢が考えられるでしょう。

だから、「宝物は何？」と聞かれれば、家族とも答えたいし、親から伝えられた生き方・考え方とも答えたいし、教室で過ごす時間とも答えたいし、クラスのみんなどとも答えたいし、沢山の出会いや別れや思い出とも答えたくくなります。

その質問をしてきた子は、どうやら「物」としての宝物を聞きたいようでした。

カテゴリーが選択されてもなお迷います。

まず身近なところと言えば、「贈り物」がそうです。

贈り物には、贈ってくれた人の気持ちが詰まっています。

学校で使っている愛用品の中にも、そうした贈り物がたくさんあります。

例えば、奈良県を離れる時、かつての教え子たちからいろいろな贈り物をもらいました。

私が普段つけているタックピンもそうだし、ネクタイもそうだし、職員室で使っているコップもそうだし、冬に巻いているマフラーもそうです。

サンルームで使っている電子黒板もプレゼントだし、年度初めてたくさんの方に渡した名刺も東京のデザイナーさんがプレゼントしてくれました。

そして以前はいていた上靴もそうです。

最初に送り出した卒業生たちは、すでに成人し、企業等で働いている子も少なくありません。

その中で、靴屋さんで勤めることになった教え子からもらったのが、一昨年履いていた上靴です。

成人式の日にはプレゼントされました。

「先生良く動くからすぐボロボロになるでしょ。」

と言って、私の妻から内緒で足のサイズを聞き出し、自分の給料で買ってきてくれたのでした。

だから、ボロボロになっても中々履き替える気にならず、最後はそこが取れる状態になってしまいました。

そうそう、三年前東京に日帰りの仕事で出張した際は、帰りの便の CA さんが教え子でこれまた驚いたことがありました。

そこでも、手紙とお菓子を贈ってもらいました。

どの贈り物も私の大切な宝物です。

プレゼントとは別の、「宝物」もあります。

それを、おとといクラスで紹介しました。

いつも教室の棚に置いてある、「楽譜」です。

曲は、ブラームスの交響曲第一番。

使ったのは、今からもう 10 年以上も前になります。

あちこちに書き込みがあり、すすけてボロボロになっているこの楽譜も、「物」としての私の宝物です。

手に取るだけで、沸々とわき上がってくるものを感じる代物です。

4 月の初めに伝えたお話しを、もう一度掲載します。

先生が小さい頃一番苦手だった勉強。

それは、音楽です。(子どもたちはエッという表情)

苦手になったきっかけは、楽譜が読めなかったことでした。

小学校 1 年生の時に、自分が思うように鍵盤ハーモニカが吹けなくて、しかも楽譜も読めなくて、音楽が嫌いなまま大きくなりました。

小学校高学年になっても、中学生になっても苦手なまま。

そんな先生が高校生になった時に、ふとしたきっかけでバイオリンを始めませんか？と誘われたんです。

もちろん最初はやるつもりはありませんでした。

だって音楽が苦手な嫌いなんですから。

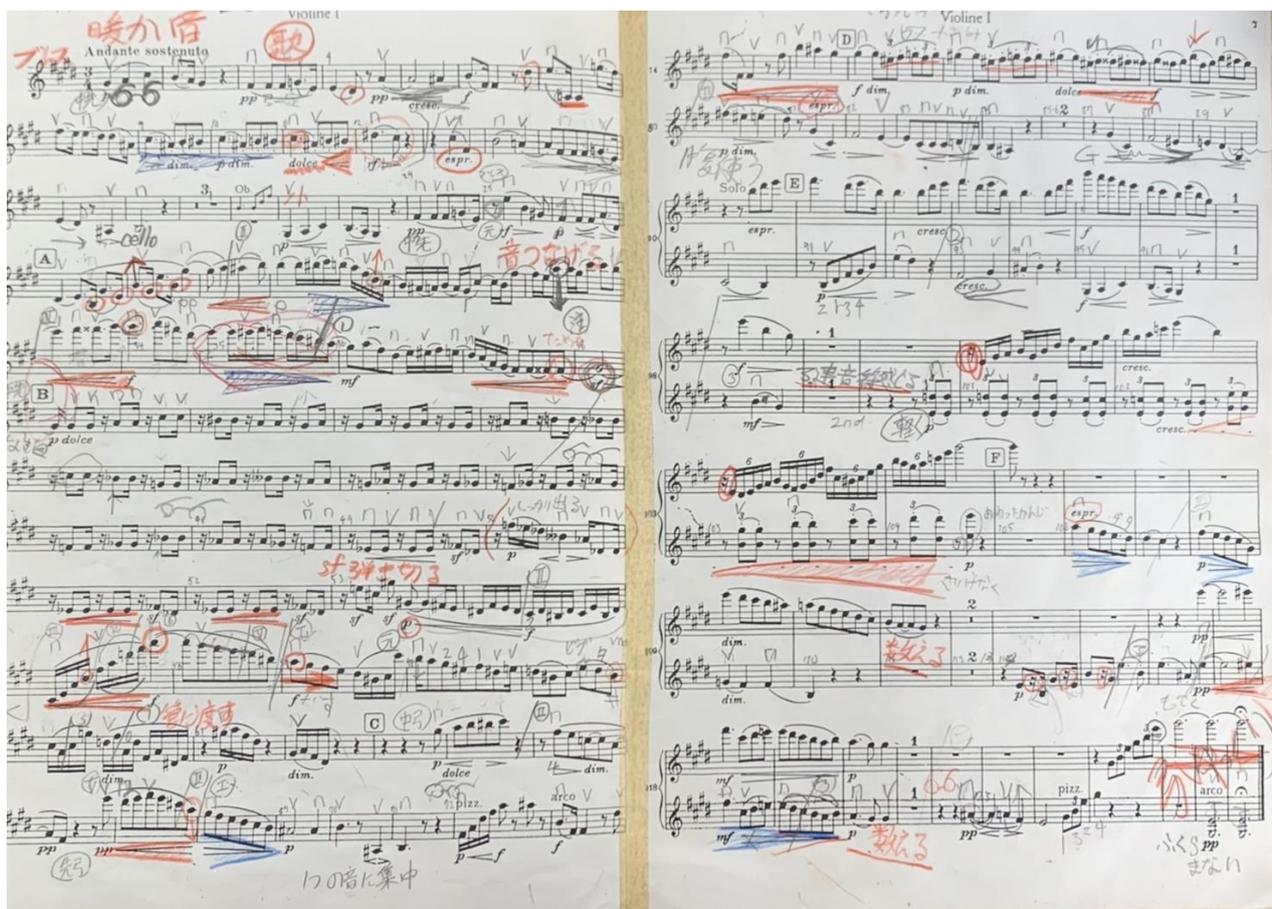
でも、熱心に誘ってくれた人の気持ちに動かされて、「よし、やってみるか」と高校1年生からバイオリンを始めてみたわけです。

結果、それから20年以上たった今でも演奏を続けています。

バイオリンだけでなく、他にも色々な楽器を楽しむようにもなりました。

演奏を通じてどれだけ素敵な仲間と繋がり、思い出ができたのか、それはもう数えきれないほどです。

子どもたちは、目をしっかり見開きながら、熱心に聞いていました。



この楽譜は、自分にとっての「勇気の証」であることを、です。

あの時、「よし、やってみるか」と行動を起こして、たくさんの努力や練習を積んで、3年かかってようやく弾けるようになったのがこの楽譜です。

繰り返しますが、私は高校に入るまで全く音楽経験がありませんでした。

当然、ピアノも一切弾けないですし、楽譜も読めません。

習い始めてからも、コンサートで何度も失敗して恥ずかしい思いも経験しました。

そうして少しずつ努力を重ね、3年かけて弾けるようになったのがこのブラームスの一番です。

今でもこの楽譜を手にとると思い出するのは、入部したばかりの頃に楽器を持つことすら満足に出来なかった15歳の自分の姿です。

自分の過去の姿ですから、それははっきりと覚えていますし、体にも残っています。

今改めて思うのは、「うまくいった経験」もそうですが、それ以上に「うまくいかなかった経験」が自分に教えてくれること、自分を支えてくれることが沢山あるなあということです。

私は今でも時折この楽譜を見て、勇気や希望をもらっています。

そして、4-1のみんなにも、そんな宝物を人生の中で一つでも多く見つけてほしいなあと思っています。

この話は、教室でことあるごとに伝えるようにしています。

今朝も、ひよんなことからこの話になりました。

きっかけは、下のお話です。

「サーカスの象は、なぜ逃げないか知っていますか？」

いきなり、このように問うてみました。

キョトンとする子どもたち。

象は、陸上生物の中で最大の生き物。

力の強さも、動物の中で最強です。

その気になれば大木を根こそぎ引っこ抜くほどの力を持っており、百獣の王であるライオンでさえ敵わないと多くの動物学者が言っています。

しかし、サーカスにいる象は、普段、小さな杭につながれた鎖を足に巻かれているだけであるにもかかわらず、決して逃げようとしません。

これは、有名な「鎖につながれた象」というお話です。

少し長くなるが、ある本から引用します。

お祭りの時期にやってくるサーカスを、毎年楽しみにしていたとある男の子。特に、巨大な身体を揺らしながら曲芸をこなしたり、愛嬌のある表情で長い鼻を伸ばす象の演技が一番のお気に入りだった。

しかしその年、その男の子はテントの売れでちっぽけな杭につながれた象の姿をみて「その巨体ならどうにでもなるはずなのに」と、なぜか逃げ出さ

ないことが不思議でたまらなかった。父さんや母さん、お隣のおじさんや周りの大人たちに聞いてみても、そのわけを答えられなかった。

そんなある日、たまたま男の子のいる町にやってきた賢人（けんじん）に出逢った。男の子は他の大人に投げかけていたのと同じように象の質問を試してみた。そうすると、その賢人は男の子の顔をのぞきながら、こう答えた。

**「サーカスの象が逃げないのは、生まれたばかりの小さな小象のときから杭につながれているからだよ」**

その話を聞いた男の子は、生まれたばかりで弱弱しい象が杭につながれているところを想像してみた。生まれたばかりの小象は、自分の身体から生えている 4 本の脚が何のためにあるのか知るために、走りだそうとしてみる。しかし杭につながれた鎖が邪魔をして、その場から大して動くことはできない。薄暗い部屋からわずかにのぞく外の世界を見てみようと思っても顔を伸ばしてみても、やはり脚の鎖がやっかいだ。

そうして、押したり、引いたり、懸命になって逃げようとしたに違いない。しかし、どんなにがんばっても、その鎖から逃げることはできなかった。

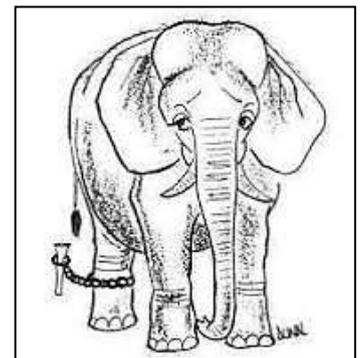
小象にとって、その杭はあまりに大きすぎたのだ。

疲れ切っては眠りにつき、また次の日も同じことを繰り返す。

そんなことを繰り返しているうち、遂にある日、象は逃げることをやめた。脚についた鎖と杭は、こういうものだと思いついた。

そう。これこそが、象が逃げない理由だった。このサーカスに登場する象は、

いまやどれだけ身体が大きくなったとしても、杭がちっぽけであったとしても、「できない」と思い込んでいるから逃げないのだ。



この鎖は、心の鎖とも言い換えられます。

自分で自分のことを「できない」と思い込む。

できないと思いつくから、チャレンジしない。

チャレンジしないから、永遠にできるようにならない。

そんな負のスパイラルの原因ともいえる「鎖」は、みんなの心にかかってはいないでしょうか。

私にとって言えば、少年期の鎖はまさに「音楽」だったということです。  
鍵盤ハーモニカが上手に吹けなかった小学校 1 年生の時以来、自分は音楽は苦手なんだと決めつけていました。

そうやって敬遠するからますます苦手になり、中学校 3 年生になっても楽譜すらまるで読めない状態になっていたということです。

それが、現在では全く反対の立場になりました。

一連の経験を得ていろいろと思うところはあるのですが、一つだけ確かに言えことがあります。

それは、自分が音楽を苦手と思っていたのは、ただの思い込みに過ぎなかったということです。

そんな自分の鎖を抜いてくれた経験の証（あかし）が、この楽譜。  
だから宝物というわけです。

そうしたクサリがもし心の中にあるなら、一つ一つ抜いていきましょう。

「できない」「苦手」なんてことを簡単に思い込み、自分のチャンスを狭めてしまうのは、あまりにもったいないことだからです。

そうして何か一つでも鎖が抜けたなら、一つ新しい「宝物」が手に入るかもしれませんね。

**☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください**

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

